令和6年9月9日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　１５　人

②　算数　　１５　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

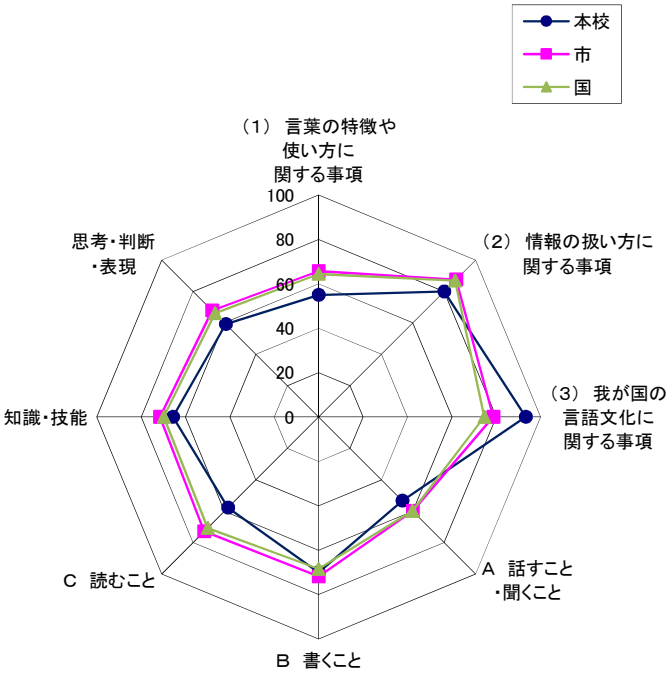
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.0	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	80.0	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	93.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	53.3	59.9	59.8
	B 書くこと	70.0	71.8	68.4
	C 読むこと	57.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	65.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	59.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

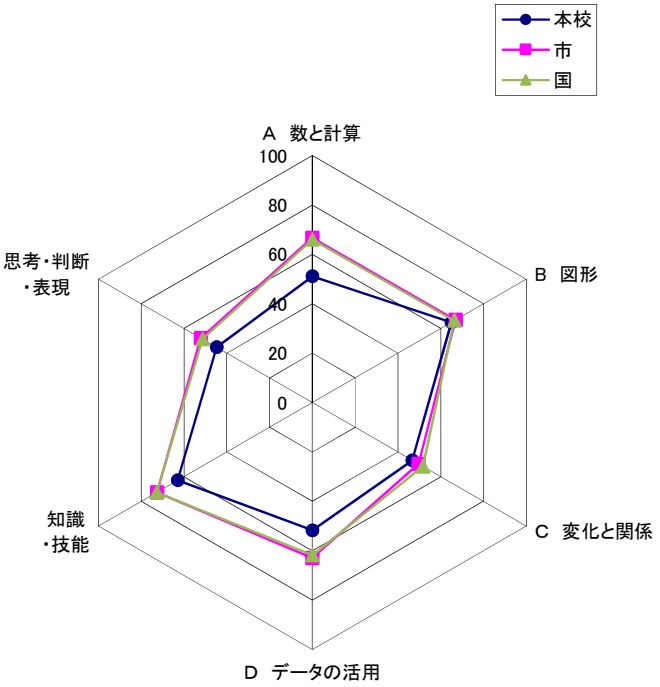
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ●話し言葉と書き言葉の違いを問う問題や主述の関係を正しくとらえる問題など，適切な文の書き表し方に関して課題が見られた。 ●漢字を正しく書く問題では，無回答の割合が高かった。	・日常生活の中で，相手にわかりやすく伝えるために，話し言葉と書き言葉の使い分けができるように指導する。主語と述語，修飾語の関係を意識した文章の読み取りに慣れさせるように指導する。 ・新出漢字を使って文を書いたり，ミニテストを定期的に行ったりして，文章の中で漢字を正しく使えるための指導を行っていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ●図による情報と情報の関係付けを問う問題では，正答率は市よりも7.6ポイント下回った。	・国語以外の教科でも思考ツールを活用するなどして，自分の考えを整理したり表現したりする活動を取り入れることで，情報と情報の関係付けや語句と語句の関係付けを理解できるように指導していく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の正答率を上回った。 ○日常的に読書に親しみ，読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題では，市の正答率より14.7ポイント上回った。	・引き続き読書を励行する中で，考えを広げる手立てとして，様々なジャンルの本を読めるような指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ●目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では，正答率は53.3%であった。	・自分の考えや話題を伝え合う際に，目的や意図に合ったものとなるよう検討したり，その内容を書いてまとめてみたりする活動を，国語だけでなく，様々な学習活動の中で取り入れる。
B 書くこと	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ○目的や意図に応じて，事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は，市の平均を7.4ポイント上回った。 ●目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題の正答率は，市の平均を11ポイント下回った。	・与えられた条件に合わせて書く活動を，作文指導等で継続的に取り入れていくようにする。 ・集めた材料の分類や関係付けのための思考ツールを使って，考えを広げたり，さらに深めたりする活動を，国語の説明文を書く授業や詩の授業等で意図的に取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ●登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えることができるかをみる問題では，正答率が46.7%と，市の正答率を21.7ポイント下回った。	・物語文を読む際に，言葉や文に着目したり，人物像やその変容についての解釈を繰り返し考えたりする指導を引き続き行い，登場人物の心情や情景を想像したりすることの習慣化につながるようにする。 ・音読や読書を励行していく。

宇都宮市立上河内東小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	51.1	66.7	66.0
	B　図形	65.0	66.9	66.3
	C　測定			
	C　変化と関係	46.7	49.6	51.7
	D　データの活用	51.7	62.9	61.8
観点	知識・技能	63.0	72.6	72.8
	思考・判断・表現	44.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ○数量の関係を□を用いた式に表す問題では，正答率が86.7%と高く，場面を式で表す力が身に付いている。 ●計算に関して成り立つ性質を活用して，計算の仕方を考察し，求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の正答率は40.0%で，市を21.0ポイント下回った。 ●除数が小数である場合の除法において，除数と商の大きさの関係について考える問題の正答率は53.3%で，市を16.2ポイント下回った。	・乗法を学習する際，計算方法の理解にとどまらず，乗数と積の関係について考える機会を増やす。 ・除法を学習する際，計算方法の理解にとどまらず，除数が1より小さいときの除数と商の関係について，具体物を用いたり，様々な場面を考えたりする指導をする。
B　図形	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ○直方体の見取図について理解し，かく問題では，正答率が86.7%と高く，立体の見取図をかく力が身に付いている。 ○球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え，立方体の体積の求め方を式に表す問題では，市の正答率を2.1ポイント上回った。 ●角柱の底面や側面に着目し，五角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題では，正答率が60.0%で市を13.2ポイント下回った。	・「底面」「側面」など算数的な言語を使って，図形の性質について自分の言葉で表現する機会を増やすことで，説明する力を伸ばしていく。
C　変化と関係	平均正答率は，市の正答率をやや下回った。 ●速さが一定であることを基に，道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では，無回答があるなどの課題が見られた。 ●速さの意味について理解しているかどうかをみる問題では意味を理解できていない回答や無回答が存在するなどの課題が見られた。	・時速，分速，秒速の意味や速さと時間や道のりの関係などを改めて復習できる機会を設定し，理解を図る。 ・問題の意味や用語の意味の理解が不足していると考えられるので，丁寧に解説を加えながら復習に取り組む。
D　データの活用	平均正答率は，市の正答率を下回った。 ●円グラフの特徴を理解し，割合を読み取ることができるかどうかをみる問題では，正答率が66.7%で，市を15.2ポイント下回った。 ●条件に当てはまる言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では，無回答率が33.3%と，課題が見られた。 ●表から必要な数値を読み取って式に表し，基準値を超えるかどうかを判断する問題では，正答率が33.3%で，市を16.1ポイント下回った。	・複数のデータを関連付けて課題を解決する力や，必要なデータを見極める力，複数あるデータを比べて共通点や相違点を自分の言葉で表現する力をつけるために，データが複数ある問題に触れる場面を意図的に設定する。

宇都宮市立上河内東小学校第６学年　児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分には，よいところがあると思いますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が93.8%であり，全国平均を9.7ポイント上回った。今後も自己肯定感を高められるような声掛けや，学級として個人を認めてあげられるような取り組みを継続して行っていきたい。

○「普段の生活の中で，幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も日々の生活で楽しみや幸せを感じられるような学級経営を行っていきたい。

○「授業や学校生活では，友達や周りの人の考えを大切にして，お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も友達と協力することの大切さや，人間関係をよりよくできるようなコミュニケーションの取り方の支援を行っていきたい。

●「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が81.3%であり，全国平均を10.3ポイント下回った。生活のリズムが定まっていない児童や朝が苦手な児童が見られるので，家庭と連携して生活リズムを整えていけるよう支援していきたい。

●「普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という問いに対して「４時間以上」と回答した児童の割合が37.5%であり，全国平均を19.8ポイント上回った。また，「普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）という問いに対して「４時間以上」と回答した児童の割合が37.5%であり，全国平均を15.6ポイント上回った。家で生活している大半がゲームやYouTubeで動画視聴を行っている児童が半数近くいることが分かる。家庭と連携して時間の制限などのルールを設けたり，家族と共に過ごせる時間を大切にしたりできるように支援していきたい。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに，自分で学び方を考え，工夫することはできていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が56.3%であり，全国平均を24.7ポイント下回った。自分から学ぼうとする姿勢がある児童があまり多くないので，今後も学ぶ楽しさを味わうことができるように授業や課題を工夫していきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力を高めるための取組	様々な教科での学習や場面を利用して，書き方の形式に沿って書いたり，自分の考えを書いたりする活動を意図的に取り入れていく。	自分の考えを書く設問においては，国語，算数ともに，正答率が市の平均正答率を下回ったものが多かった。自分の考えを整理したり表現したりする思考ツールを活用するなど，引き続き，書く力を高める手立てを考えていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
朝決まった時間に起きていない児童や，ゲームや動画の利用時間が長い児童が多い。	生活リズムを整え，学習への意欲を高めるための取組	家庭との連携を図りながら，今年度の重点合言葉「早寝・早起き・メディアコントロール」を意識づけられる指導を行う。